

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

地域の様々な人々と連携・協働し、夢の実現をめざして本気で挑戦し、自ら考え行動できる人材を育てる学校をめざす。

- 1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。
- 2 規範意識・人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた人間を育成する。
- 3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む 21 世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。

## 2 中期的目標

1 確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。

(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。

ア ICT 機器を効果的に活用し、アクティブラーニングなど指導法の工夫をすることにより、「主体的・対話的で深い学び」となる授業をめざす。  
・アクティブラーニングルーム・地域連携ルーム 等を活用し、アクティブラーニング型授業を展開する。

イ 公開授業、研究授業、授業アンケート等を通じて、授業改善、授業力の向上に取り組む。

教員相互の授業見学等を日常的に実施し授業のコツ、ノウハウ等の共有を図る。また地域の中学校と連携し、相互授業見学を推進する。

※授業アンケートにおける授業満足度を 80%以上を維持する。

(2) 学校一体となって、「学習する体制」を整え、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。

ア 3 年間を見通し、1 年次から計画的に「学習会」を開催し、生徒のモチベーションの向上を図る。

イ 補習・講習を充実させ、生徒一人ひとりの進路支援体制のさらなる充実、学習支援体制の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導・支援体制の満足度を 2020 年度には 85%とする。

※生徒の進路達成満足度を 2020 年度には 85%とする。

(3) 本校普通科の 4 つのタイプのそれぞれの特色を踏まえ教育内容の精選・充実を図る。また、本校国際教養科の 2 つのタイプのそれぞれの特色を踏まえ教育内容の精選・充実を図る。

2 規範意識（ルール・マナー）・人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた人間を育成する。

(1) 生徒の人間的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。

ア 学年・生指部の連携を強化し、学校全体で指導・支援体制の充実を図る。

・学年間の連携を密にすることにより、学校全体で同じ基準ですべての生徒に対応できる体制をつくる。

イ 遅刻指導、挨拶や礼儀の指導を全教職員が継続して取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における生徒指導体制に対する満足度を 2020 年度には 75%とする。

ウ クラス活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を通して、社会的基礎力を育成する。

特に行事の活性化に取り組む、学校生活に対する充実感を高める。また部活動の退部率を減少させる。

※生徒向けアンケート における行事満足度を 2020 年度には 87%以上とする。

(2) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりの支援体制を確立する。

ア 発達障がい、不登校など生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制を保護者、関係機関と連携しながら、充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の満足度を 2020 年度には 70%とする。

(3) 人権意識、実践力を高める教育活動をさらに充実させる。

ア 人権教育を再構築する。特に情報ネット社会における人権侵害やいじめなど今日的課題について学び、人権感覚、実践力を高める。

※ 生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する満足度を 2020 年度には 80%とする。

3 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む 21 世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。

(1) 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組むとともに、論理的思考力・課題解決能力・探究力の育成を図る。

ア・少人数展開を行い、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を実施することにより、一人ひとりが主体的・意欲的に取り組む授業を実践する。

・ICT 機器等を活用し 4 技能をバランスよく伸ばす。英検・GATEC 等の試験を積極的に活用する。

・姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプの充実・発展、さまざまな国々との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。

イ「学校経営推進費」の支援により外部英語関連会社と連携をした「英語トレーニング講座」を開設し、特に生徒の発信能力の育成に取り組む。

(2) 国際教育、ESD（持続発展教育）（ユネスコスクールの取組を含む）の充実・発展に取り組む。

ア 国際部が中心となって校内における国際教育、ESD の企画・立案を行い、本校の国際教育のレベルアップを図る。

※生徒向け学校教育自己診断において、国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する満足度を 90%以上を維持する。

4 地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信をさらに推進する。

(1) 中高連携、高大連携、地域連携等を密にし、地域に根ざした学校づくりを推進する。

(2) ホームページ・メルマガ等を通じて、広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。

※保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度を 2020 年度には 80%とする。

5 校内運営体制の改善と人材の育成を推進する。

(1) 業務の精選と簡素化を図りながら、機能統合等の課題に対応する機動的な学校組織運営を確立させる。

(2) 「育てたい生徒像」を念頭に、本校の将来を見据えながら、教員を育成するシステムの構築を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○学習面においては、ICT の活用度も 88%と高く、授業アンケートの結果を見ても、授業満足度が 80%以上を維持できている。しかし、これに甘んじることなく、さらに生徒が主体的に深く学べる授業をめざしたい。</p> <p>○生徒指導面について、「共感できる」と回答した保護者は 68%、生徒は 45%と、依然として課題の残る結果となっている。しっかり説明責任を果たすとともに、学年差を生じさせず学校全体でぶれない指導を徹底したい。</p> <p>○本年度、生徒会を中心に、生徒が行事について深く考え自ら改善を試みた。その結果、各行事の満足度は高く（体育祭 95%、文化祭 81%）、「生徒会」についての肯定的回答は昨年度と比較し 10 ポイント高い 76%となった。</p> <p>○本年度、自然災害の恐ろしさを実感する年であった。これを教訓に、学校の安全教育をさらに充実させ、その肯定率（66%）を向上させたい。</p>	<p>&lt;第 1 回&gt; 6 月 26 日</p> <p>○生徒指導の必要性は、社会人になる前に社会のルールを守ることもしっかり『しつける』ことにある。生徒の『なぜ？ どうして？』を解決することによって自主的な行動につながる。○1 年生に部活動を強制することは良い。部活動をとおして、生徒は自分のストーリーを作っていくきっかけになる。</p> <p>&lt;第 2 回&gt; 11 月 20 日</p> <p>○この地域の中学生の減少率が府下においても一番高い。長高のどの層を上げていくのか、策を講じて長高独自の魅力を発信しなければならない。</p> <p>&lt;第 3 回&gt; 2 月 25 日</p> <p>○長野高校がめざしているものをはっきりと示す必要がある。そして、それが生徒のニーズに合うのかの検証も必要である。これからの長野高校の立ち位置について、校長のリーダーシップのもと、方向性をはっきり示し、教職員全体で共有してほしい。</p>

## 府立長野高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力を身につけ、 自らの力で進路実現できる生徒を育成	(1)「わかる授業、充実した授業」をめざして学校全体で授業改善に取り組む。  (2) 学校一体となって、「学習する体制」を整え、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。  (3) 普通科の4類型および国際教養科の2類型の充実を図る。	(1)ア アクティブラーニングルーム・地域連携ルームを活用しながら「ICTを活用した授業」「アクティブラーニング型授業」等指導法を工夫し「主体的対話的で深い学び」となる授業をめざす。 イ「授業のあり方研究会」を中心に、本校「授業スタンダード」を踏まえて相互授業見学及び研究授業を計画的に実施し、教科を越えて情報交換を密に行う。また中学校との相互授業見学を実施し、中高連携を促進する。 (2) 首席・指導教諭を中心に、学校全体で「学習する体制づくり」に取り組む。 ア 1年生から進学希望生徒対象の「学習会」を計画的に実施する。 イ 講習・補習を学校として計画実施し総括する。 (3)「国際教養科」の2類型および「普通科」4類型の特色を打ち出し、違いを明確にする。	(1) 授業アンケートの満足度を80%以上とする。(H29 81%) ア「ICT活用満足度」を90%とする。(H29 87%) イ 6月及び11月を中心に相互授業見学を実施し校内研究授業を年間15回は実施する。学校教育自己診断「講習・補習が充実している」満足度75%とする (2) 生徒向け学校教育自己診断における進路指導・支援体制の満足度を75%以上とする。(H29 73%) (3)新科目「看護総合」等の授業に関するアンケート調査結果満足度80%とする。	(1)授業アンケート結果によると、満足度は80.2%であった。(○) ア ICT活用満足度は88%と目標の90%には届いていないが、高い満足度であると考ええる。(△) イ方針を新たに授業見学週間を設け、義務化しない中で73%の教員が積極的に見学・情報交換に参加した。(○) 講習等への満足度は70%(△) (2)進路指導体制に対する満足度は70%に留まったが、自己実現に対する満足度は97%となった。(◎) (3)「看護総合」に対しての満足度は100%に達した。(◎)
2 規範意識、人権意識を育み、 身につけた人間を育成	(1) 生徒の規範意識を身につける指導体制を確立する。  (2) 教育相談体制の充実を図り、生徒一人ひとりの支援体制を確立する。  (3) 人権意識、実践力を高める教育活動をさらに充実させる。	(1)ア 学年間・生指部の連携を強化し、学校全体で同じ基準で生徒に対応する体制を整える。 イ・引き続き遅刻指導に重点的に取り組むとともに、身だしなみ(服装・装飾品・化粧等)の指導も継続する。 ・清掃を徹底する。 ウ 体育祭・文化祭等各行事のマニュアル化およびさらなる活性化を図る。また球技大会等の生徒の自主的活動を実施する。 (2)ア 発達障がい、不登校など生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制を保護者、関係機関と連携しながら、充実させる。教育相談連絡会を毎月開催する。「いじめ事象」に関しては「いじめ対策委員会」をタイムリーに開催して対応する。 (3)ア 本校の「人権教育」のあり方を再構築する。特に最新の課題等について教職員、生徒がともに学び人権感覚を高める機会を確保する。	(1)ア 生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の満足度を60%以上とする。(H29 42%) イ・年間の遅刻者数を10%減少させる。 ・学校教育自己診断における「清掃がゆきとどいている」70%とする。 ウ 行事の満足度を85%以上とする。 (2)ア 生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の満足度を65%以上とする。(H29 62%) (3)ア 生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する満足度を75%以上とする。(H29 69%)	(1)ア生徒指導体制への生徒の満足度は45%(△)だが、保護者は68%と一定理解を得ている。しかし、学校全体で統一した指導の徹底が必要。 イ・年間遅刻者2,264件であり、目標の達成に至らなかった。(△) ・清掃に関しては、65%。昨年より3ポイント上昇ではある。(△) ウ 各行事の満足度は、体育祭94.6%、文化祭80.7%であった。(○) (2)教育相談体制についての満足度は71%であった。(◎) (3)人権教育に関する満足度は、77%と、生徒の意識を向上できた。(◎)
3 英語教育、国際教育のさらなる充実	(1) 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。  (2) 国際教育、ESDの充実・発展に取り組む。	(1)ア・改訂したカリキュラムを実効性のあるものとする。継続的に充実させるための工夫をする。 ・姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプの充実・発展、さまざまな国との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。 イ・継続して「英語トレーニング講座」を開設し特に発信能力を育成する。もって、英検の準2級以上の合格者数増をめざす。 ・G-TECを継続実施し、4技能をバランスよく伸ばすための指標とする。全学年G-TECの実施をスムーズにおこなえるよう校内体制を整える。 (2) 国際部が中心となって校内における国際教育、ESDの企画・立案を行い、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。ユネスコスクールとしての取組を企画実施する。	(1)アイ ・授業アンケート満足度80%以上とする。 ・海外語学研修、イングリッシュ・キャンプ等各行事の参加者の満足度を90%以上とする。 ・英検準2級合格者数80名以上(H29 79名) 英検2級合格者数15名以上(H29 11名) ・GTECスコア500点以上10%とする。(H29 7%) (2)生徒向け学校教育自己診断において本校国際教育(ユネスコ活動を含む)に対する満足度を90%とする。(H29 87%)	(1)アイ それぞれの満足度は以下のとおり 英語関係の授業80%(○) 海外語学研修100%(◎) イングリッシュ・キャンプ91%(○) ・英検の取得級状況は以下のとおり 準1級3人/2級40人/準2級94人 ・GTECスコアについては、2年国際教養科で500点以上17%となったが1年普通科では3%に留まった。 ・これらを総合すると(○) (2)国際教育に対する満足度87% 90%には届かなかったが、生徒の意識を高める教育は出来た。(△)
4 ある学校づくりと情報発信	(1) 中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりを推進する。  (2) 広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。	(1) 学校、学年また各教科、クラブ単位で地域の市役所、保育所、小中学校・福祉施設等地域との連携行事を積極的に企画実施する。 (2) 学校ホームページのさらなる充実、保護者携帯へのメール送信の充実。また学校ニューズレター等の発行など地域への広報活動をより積極的に行う。広報活動について、学校全体で取り組む体制を確立する。	(1) 参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度を90%以上とする。(H29 90%) (2) 保護者向け学校教育自己診断における広報に関する満足度を75%以上とする。(H29 60%)	(1)今年度新たに加わった取組みを含め、地域の各行事に参加した生徒の満足度は95%を超えた。(◎) (2)広報活動についての満足度は63%と昨年より3ポイント上昇したもののさらに工夫・充実が必要という結果であった。(△)
5 校内運営体制の改善と 人材の育成	(1) 業務の精選と簡素化を図りながら、機動的な学校組織運営を確立させる。  (2) 教員を育成するシステムの構築を図る。	(1)・教職員の負担軽減を考慮しながら、委員会等についてスクラップ&ビルドを行い、学校の課題解決に向けて適宜チームを立ち上げスピーディーに対応する。(機能統合チームetc.) ・教員間の朝の連絡会を継続実施し、時間の無駄なく情報を共有する。 (2) 首席・指導教諭が中心となって、教員の実践的な「共育研修」及び「AL型教員全体研修会」を定期的に行い、校内の意思形成を図る。	(1)「機能統合チーム」については、統合後の長野高校のカリキュラム等の基礎が完成し道筋が確立したことを持って達成とする。 (2)「共育研修」「AL型教員研修」を定期的に行い実施する。研修後の成果が形となったことを持って達成とする。	(1)再編整備計画に係るカリキュラムの策定は、学校設定科目「グローバルリサーチ」の設定を決定し、河内長野市教育委員会や、外部の専門機関と連携しながら内容を固めている。(◎) (2)「長野未来プロジェクト」という教員全員参加型の研修を行い、意思形成を図った。(○)